

2024.10-12

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)=(実現損益+未収収益増減+評価損益増減)÷(元本平均残高+前期末未収収益+前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22カ国の上場企業の株価指数で構成。

2024年度第3四半期運用状況

10月の株式市場は、国内株式は衆議院選挙での与党過半数割れなど政局不透明感が嫌気されたものの、円安・ドル高進行を受け上昇しました。米国株式は、米国景気の底堅さや利下げ継続観測を背景に連日最高値を更新するなど上昇しましたが、下旬にかけては長期金利上昇が重荷となり下落しました。11月は、国内株式は低調な企業決算や日銀による早期利上げ観測の高まりなどを受け下落しましたが、米国株式は、次期トランプ政権による大規模減税や規制緩和への期待感から最高値を更新しました。12月は、国内株式は日銀が政策金利を維持したことや、円安進行を受け日経平均株価が再度40,000円を超えるなど上昇しましたが、米国株式はFRBの利下げペースが減速するとの見方から金利の高止まりが意識され下落しました。

一方、債券市場は、10月は、米景気の底堅さから米10年国債利回りは一時4.3%台まで上昇(価格は下落)し、これを受け国内10年国債利回りも0.9%台に上昇しました。11月は、日銀追加利上げ観測の高まりを受け国内10年国債利回りは1%台に上昇し、米10年国債利回りは12月利下げ観測の高まり等から低下(価格は上昇)しました。12月は、米10年国債利回りはFOMCで0.25%利下げ実施決定も、FRB議長が一段の利下げに慎重な姿勢を示したこと等から一時4.6%台まで上昇し、これを受け国内10年国債利回りも1.1%台まで上昇しました。

なお、この間の為替市場は、日米の金利差が拡大したことで円が売られ、円/ドルは143.04円から157.16円へと大幅に円安が進行し、円/ユーロも159.64円から162.73円に円安が進みました。

このような市場環境の下、当基金の第3四半期の収益率はパッシブ資産が2.20%、オルタナティブ資産が1.05%、生保一般勘定を含めた資産全体では1.96%となりました。また、資産全体の4月から12月末までの年度通期の収益率は3.98%となりました。

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	8.44	3.08	-1.06	1.96		3.98
収益額(千円)	410,200	166,527	-59,039	106,803		214,290
期末運用資産額(千円)	5,384,784	5,568,989	5,479,306	5,556,477		5,556,477

(注) 収益率は修正総合利回り。

1. 2024年度 第3四半期運用環境

【市場の動き（10月～12月）】

国内債券：10月の10年国債利回りは、米長期金利の上昇や大幅な円安・ドル高進行による日銀早期利上げ観測等から0.9%台に上昇（価格は下落）しました。11月は、米大統領・議会選挙の結果を受けて米長期金利が上昇し円安・ドル高が進行する中、日銀の追加利上げ観測等の高まりから上昇しました。12月は、中旬まで日銀の追加利上げ観測や米利下げペースの鈍化観測等を背景に1.00%台半ばから後半で推移し、その後、日銀政策決定会合での利上げ見送り観測から一時低下する局面があったものの、米金利上昇を受け上昇し、月末は1.09%で終わりました。

国内株式：10月は、月前半は円安・ドル高の進行を背景に堅調に推移し、15日には日経平均株価が節目の40,000円台を回復しましたが、月後半は、米大統領選挙でトランプ氏が優勢と報じられ、対中輸出規制や関税の強化が懸念され下落しました。11月は、上旬は米大統領・議会選挙の結果を受けて米株高や円安・ドル高が進行する中上昇しましたが、その後は低調な企業決算や米トランプ次期大統領による中国やメキシコ、カナダに対する関税引上げの表明などを受けた投資家のリスク回避姿勢の強まりから38,000円台前半まで下落しました。12月は、中旬にかけて米ハイテク株高、日銀金融政策措置観測、米主要3指数の最高値更新などを受け一時40,000円台に乗せました。その後は、日米中央銀行の金融政策決定会合を控え様子見姿勢の強まる中、利益確定売りに押される展開が続き、一時39,000円を割りましたが、月末にかけては米国株上昇や円安進行を受け上昇し、月末は39,000円台後半で終わりました。

外国債券：10月の米10年国債利回りは、上旬は米国景気の底堅さを示す主要経済指標の発表を受け、FRBによる利上げペースが緩やかになるとの見方が強まり緩やかに上昇（価格は下落）しました。月後半は米大統領選挙でトランプ氏が優勢と報じられ、同氏が掲げる大規模減税の継続や、関税の強化によってインフレ再燃や財政悪化が警戒されて一時4.33%まで上昇しました。11月は、FRB議長の発言から利下げペースの鈍化が意識され上昇しましたが、月後半は、次期財務長官に財政規律を重視するベッセント氏が指名され、財政悪化懸念が後退したことから低下（価格は上昇）しました。12月は、FOMCで0.25%利上げ実施決定したもののFRB議長が一段の金融緩和に慎重な姿勢を示したこと等から上昇し、月末は4.57%で終わりました。

外国株式：10月の米国株式は、月前半は雇用統計の改善やFRBの利下げ継続観測を背景に上昇したものの、月後半は米大統領選挙でトランプ氏が優勢と報じられ同氏が掲げる政策によるインフレ再燃への懸念から長期金利が一段と上昇したことを受け下落しました。11月は、上旬は大統領・議会選挙の結果を受けて、大規模減税の継続や法人税減税、規制緩和などによる景気浮揚や企業活動の活発化が期待され上昇しました。その後中旬には一時下落したものの、月末にかけては、米経済の底堅さや、FRBによる利下げ継続が意識されたことで上昇し、主要株価指数は高値を更新しました。12月は、月初にNYダウは45,000ドルを超え最高値を更新しましたが、中旬にかけてはインフレ圧力の根強さによる米長期金利上昇が嫌気されて下落しました。その後FOMCでは0.25%利下げが行われたものの、FRB議長が一段の利下げに慎重な姿勢を示唆したことが嫌気されて急落し、月末は42,000ドル台半ばで終わりました。

◇参考指標

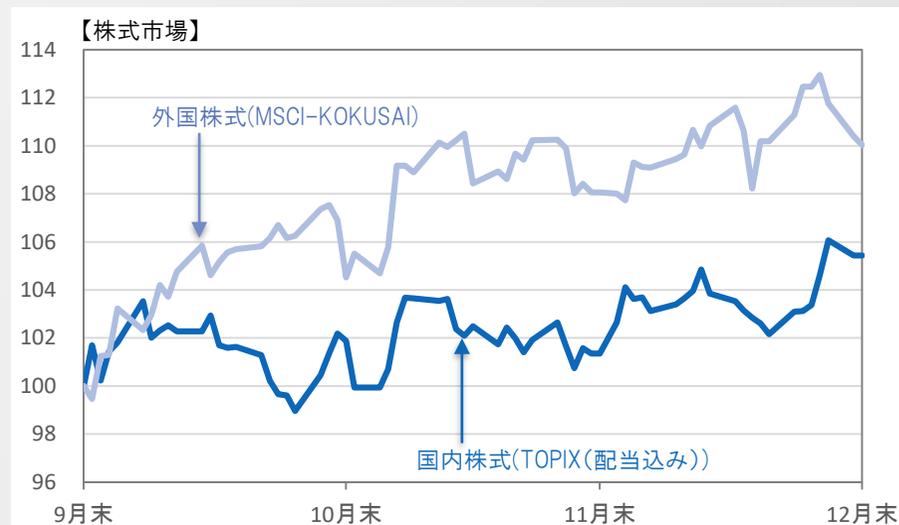
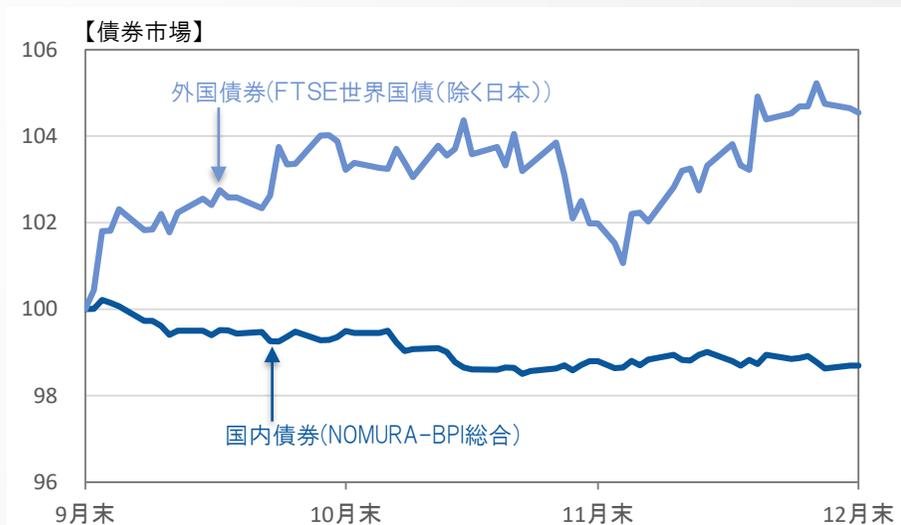
		2024年3月末	2024年9月末	2024年10月末	2024年11月末	2024年12月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.73	0.86	0.94	1.05	1.09
国内株式	日経平均株価 (円)	40,369.44	37,919.55	39,081.25	38,208.03	39,894.54
外国債券	米国10年国債利回り (%)	4.20	3.78	4.29	4.17	4.57
	ドイツ10年国債利回り (%)	2.30	2.12	2.39	2.09	2.37
外国株式	NYダウ (ドル)	39,807.37	42,330.15	41,763.46	44,910.65	42,544.22
	ドイツDAX (ポイント)	18,492.49	19,324.93	19,077.54	19,626.45	19,909.14
為替	ドル/円 (円)	151.35	143.04	152.33	150.19	157.16
	ユーロ/円 (円)	163.46	159.64	165.37	158.62	162.73

◇ベンチマーク収益率

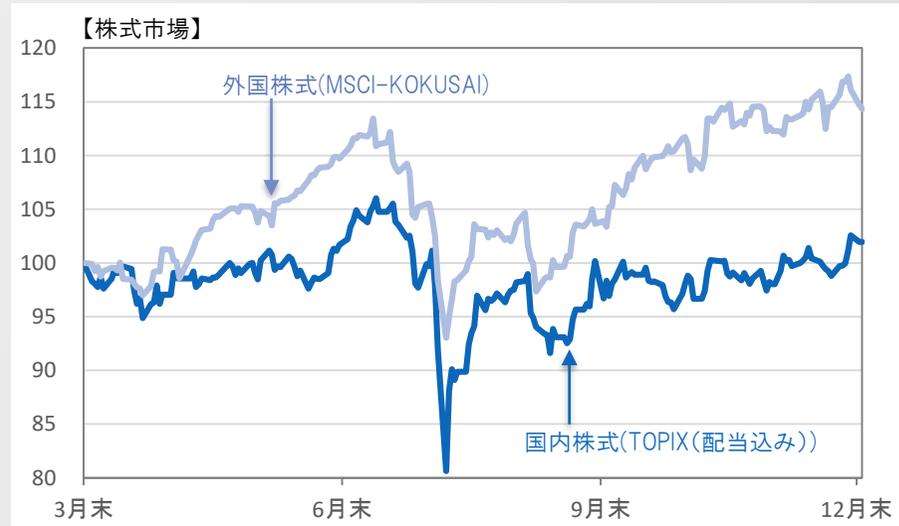
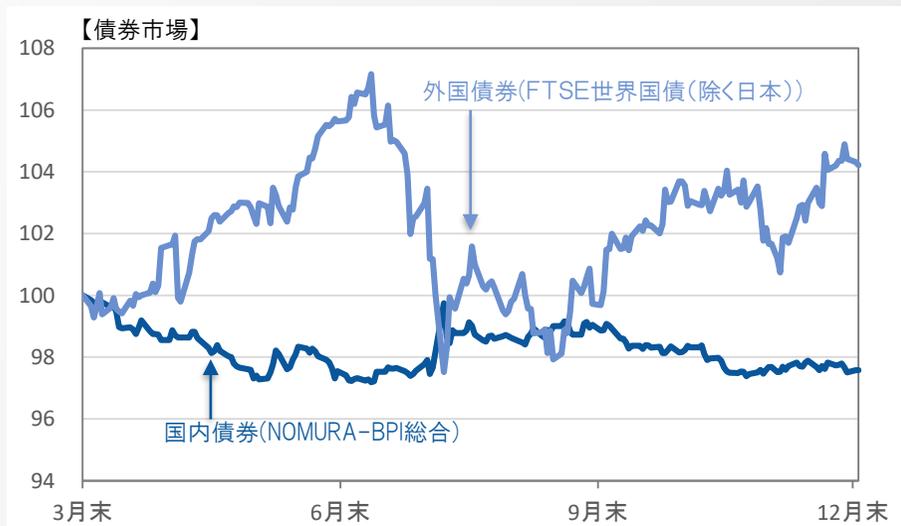
	第3四半期	年度通期
国内債券 NOMURA-BPI総合	-1.31%	-2.42%
国内株式 TOPIX(配当込み)	5.43%	1.96%
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	4.54% (-2.60%)	4.21% (-1.50%)
外国株式 MSCI-KOKUSAI	10.03%	14.33%

(注)FTSE世界国債の下段()内は、円ヘッジベースの収益率

市場ベンチマークの推移(2024年度 第3四半期) 2024年9月末=100とした市場の動き



市場ベンチマークの推移(2024年度 通期) 2024年3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	9.22	3.54	-1.27	2.20		4.48
国内債券	-1.29	-1.86	1.36	-1.29		-1.55
国内株式	32.67	4.61	-4.90	5.44		4.34
外国債券	14.88	7.06	-5.62	4.53		4.68
ヘッジ外債	-1.97	0.18	2.71	-2.67		0.13
外国株式	31.62	13.11	-5.31	9.99		16.35
短期資産	0.00	0.00	0.06	0.03		0.02

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	375,088	162,542	-59,991	101,900		204,451
国内債券	-2,007	-3,494	3,126	-3,000		-3,368
国内株式	131,974	22,259	-29,833	31,524		23,950
外国債券	50,311	28,817	-29,428	22,413		21,802
ヘッジ外債	-27,534	3,145	56,992	-57,547		2,591
外国株式	222,352	111,824	-60,917	108,485		159,392
短期資産	-8	-9	68	25		84

(2) オルタナティブ資産

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	7.82	0.83	0.10	1.05		1.98
第一生命	3.21	0.10	2.12	0.07		2.30
りそな銀行	12.46	1.50	-1.73	1.95		1.68

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	30,489	3,479	441	4,391		8,311
第一生命	6,269	207	4,290	141		4,638
りそな銀行	24,220	3,272	-3,849	4,250		3,672

(参考) 第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

(3) 一般勘定

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.15	0.12	0.13	0.13		0.38

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	4,623	506	511	511		1,528

(参考) 日本生命：ニッセイ一般勘定プラス

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	229,581	4.9%	5%	±2%	-0.1
国内株式	610,732	12.9%	13%	±3%	-0.1
外国債券	516,771	10.9%	11%	±3%	-0.1
ヘッジ外債	2,099,609	44.5%	45%	±4%	-0.5
外国株式	1,194,343	25.3%	23%	±4%	+2.3
短期資産	69,474	1.5%	3%	±3%	-1.5
合計	4,720,510	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(2) オルタナティブ資産

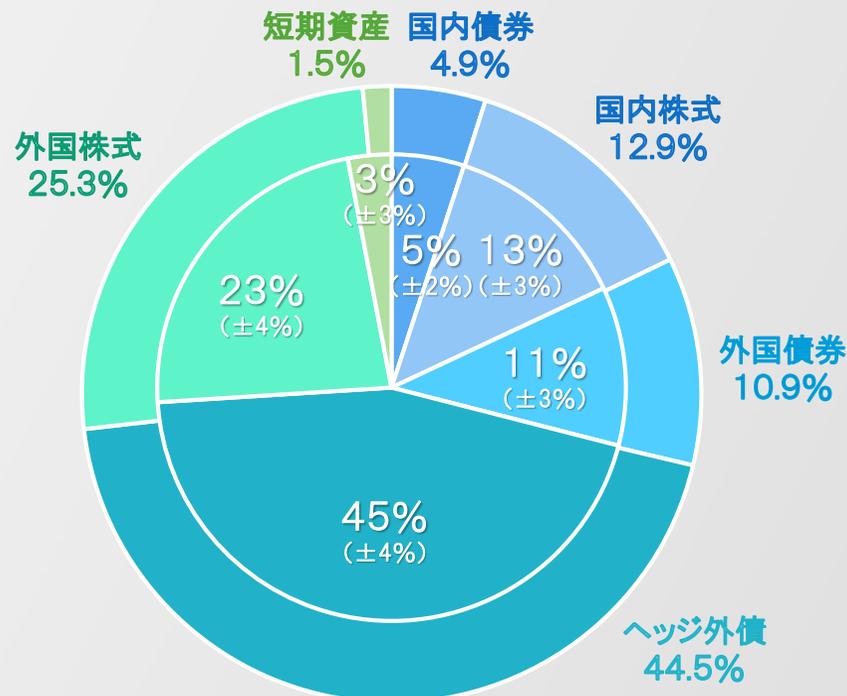
	資産額(千円)
第一生命	206,451
りそな銀行	222,257
合計	428,707

(3) 一般勘定

	資産額(千円)
日本生命	407,260

(4) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	4,720,510
オルタナティブ資産	428,707
一般勘定	407,260
合計	5,556,477



内側：基本ポートフォリオ(カッコ内は許容乖離幅)
外側：2024年12月30日時点